

安全データシート

(表紙)

化学物質及び会社情報

製品名	ポナールキット-CN・T-L
製品コード(整理番号)	PK03
会社名	株式会社同仁化学研究所
住所	熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門	品質保証部
電話番号	096-286-1515
Fax番号	096-286-1525
E-メールアドレス	info@dojindo.co.jp

本製品は下記の製品より構成されるキットである。
それぞれの構成製品の製品完全データシートを作成し、それを合わせたものを本製品の製品安全データシートとする。

構成製品名

ポナールキット-CN・T-L (薬品イ)

ポナールキット-CN・T-L (薬品ロ)

ポナールキット-CN・T-L (薬品ハ)

ポナールキット-CN・T-L (薬品A)

ポナールキット-CN・T-L (薬品B)

ポナールキット-CN・T-L (薬品C)

ポナールキット-CN・T-L (薬品D)

ポナールキット-CN・T-L (燃料アルコール)

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品イ)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性: 飲み込んだり、吸入したり、あるいは皮膚に触れると有害である。
環境影響: 環境に対して影響する可能性がある。
物理的及び化学的危険性: 通常の取扱では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性: データなし
分類の名称 (分類基準は日本方式): その他の有害性物質。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物
化学名: ポナールキット-CN・T-L (薬品イ)
別名: PONALKIT-CN・T-L (薬品イ)
成分及び含有量: 水酸化ナトリウム (0.6%)、水 (99.4%)
化学特性 (化学式): 水酸化ナトリウム (NaOH)
CAS No: 1310-73-2 (水酸化ナトリウム)
官報公示整理番号 (化審法・安衛法): (1)-410 (水酸化ナトリウム)
危険有害成分: 水酸化ナトリウム

4. 応急措置

吸入した場合:

- 被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- 医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- 呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- 嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合:

- 付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- 衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合:

- 直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- 洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。
- 洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと眼の障害を生じる恐れがある。

飲み込んだ場合:

- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。
 - ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。
- 応急措置をする者の保護：
- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤： ・水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素
- 火災時の特定危険有害性： -
- 消火方法：
- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
 - ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
 - ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 - ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
 - ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
 - ・初期消火には水、粉末消火剤を用いる。
 - ・大規模火災の場合は、噴霧、泡で一挙に消火する。
 - ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
 - ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- 消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項：
- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
 - ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
 - ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
 - ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
- 環境に対する注意事項：
- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
 - ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。
- 除去方法（回収、中和、廃棄など）：
- ・溶液の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよくふき取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所に関係者以外の立入を禁止する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- ・酸化性物質との接触を避ける。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。
- ・混触禁止物質（無水クロム酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸）と分離して保管する。

安全な容器包装材料：

- ・ 堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 (2008年度版)： 記載なし

ACGIH (2006年度版)： 記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： 防塵マスク、防毒マスク

手の保護具： 保護手袋、添付のピンセットを使用する。

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣) 状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)： 無色 液体

臭い： 臭いなし

pH： pH10以上

融点： データなし

沸点： データなし

引火点： データなし

爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

比重： データなし

溶解性： 情報なし

オクタノール/水分配係数： データなし

自然発火温度： データなし

分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。

反応性： -

避けるべき条件： 酸化性物質、金属など

危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)： 分類できない

急性毒性 (経皮)： 分類できない

急性毒性 (吸入)： 分類できない

皮膚腐食性/刺激性： 区分1A-1C

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 分類できない

呼吸器感作性： 分類できない

皮膚感作性： 分類できない

生殖細胞変異原性： 分類できない

発がん性： 分類できない

生殖毒性： 分類できない

標的臓器/全身毒性 (単回暴露)： 区分外

標的臓器/全身毒性 (反復暴露)： 分類できない

吸引性呼吸器有害性： 分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性： 甲殻類（ネコゼミジンコ属）の48時間LC₅₀ 40.4mg/L⁹⁾（水酸化ナトリウム）
残留性／分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壤中の移動性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：

- ・焼却する場合、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料とともにアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。
- ・凝集沈殿、活性汚泥などの十分な廃水処理設備がある場合、水溶液は廃水処理により清浄にしてから排出する。
- ・処理施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器・包装：

十分に洗浄して廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類： なし

国連番号： なし

指針番号： -

容器等級： なし

国内規制： その他の有害性物質

輸送の特定の安全対策及び条件：

輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法： 非該当

労働安全衛生法： 非該当

毒物及び劇物取締法： 非該当

消防法： 非該当

化審法： 非該当

1 6. その他の情報（引用文献等）

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻（2008年度版）
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針（日本化学工業協会）
- 4) 15509の化学商品（2009年版）（化学工業日報）
- 5) 安全衛生情報センターHP（中央労働防止協会）
- 6) 国際化学物質安全性カード（I C S C）日本語版データベース（国立医薬品食品衛生研究所）
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版（中央労働災害防止協会）
- 8) 溶媒ハンドブック（丸善）
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース（製品評価技術基盤機構）

成分：	水酸化ナトリウム	水	混合物
	0.6%	99.4%	
化学式：	NaOH	H ₂ O	
CAS No.：	1310-73-2	7732-18-5	
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-410	なし	
急性毒性(経口)：	分類できない	区分外	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	区分外	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	区分外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分1A-1C	区分外	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分1	区分外	区分1
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	区分外	分類できない
発がん性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖毒性：	分類できない	区分外	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分1(呼吸器)	区分外	区分外 ^{※1}
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	区分外	分類できない
吸引力呼吸器有害性：	分類できない	区分外	分類できない
水生環境急性有害性：	区分3	区分外	区分外 ^{※2}
水生環境慢性有害性：	区分外	区分外	区分外
※1水酸化ナトリウムの濃度が10%以下のため区分外とした。			
※2水酸化ナトリウムの濃度が2.5%未満のため区分外とした。			

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いいたします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品口)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 該当
物理化学的危険性 分類できない
健康有害性
急性毒性 (経口) : 区分5
急性毒性 (経皮) : 分類できない
急性毒性 (吸入) : 分類できない
皮膚腐食性/刺激性 : 区分3
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分外
呼吸器感作性 : 区分外
皮膚感作性 : 区分外
生殖細胞変異原性 : 区分外
発がん性 : 区分外
生殖毒性 : 区分1B
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分外
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 区分外
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない
環境有害性
水生環境急性有害性 : 区分外
水生環境慢性有害性 : 区分外

【GHSラベル要素】

シンボル : 健康有害性

注意喚起用語 : 危険

危険有害性情報 :

飲み込むと有害のおそれ (経口)

軽度の皮膚刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

注意書き :

【予防策】 ・使用前に取扱説明書等を入手すること。

・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

・必要に応じて個人用保護具を使用すること。

【対応】 ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。

・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。

・気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】 ・施錠して保管すること。

【廃棄】 ・内容物/容器は国/都道府県/市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名 : ポナールキット-CN・T-L (薬品口)

別名：	PONALKIT-CN・T-L (薬品口)
成分及び含有量：	ホウ酸(2%)、その他成分非公開 (規制物質含まず)
化学特性 (化学式)：	H ₃ BO ₃ (ホウ酸)
CAS No：	10043-35-3 (ホウ酸)
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)：	(1)-63(ホウ酸)
危険有害成分：	ホウ酸

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- ・医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- ・呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- ・嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合：

- ・付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- ・衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- ・その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合：

- ・直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- ・洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- ・この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと眼の障害を生じる恐れがある。

飲み込んだ場合：

- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。
- ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。
-

5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

火災時の特定危険有害性： -

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水、粉末消火剤を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧、泡で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。

消火を行う者の保護 (保護具等)： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法 (回収、中和、廃棄など)：

- ・固体の場合、飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所に関係者以外の立入を禁止する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

- ・密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度：

設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 (2008年度版)：記載なし

ACGIH (2006年度版)：TWA 2mg/m³、STEL 6mg/m³[吸入] (ホウ酸)

保護具

呼吸器用の保護具：防塵マスク

手の保護具：保護手袋、添付のピンセットを使用する。

目の保護具：保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具：保護服 (長袖作業衣) 状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等

適切な衛生対策：-

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)：白色 固体

臭い：臭いなし

pH：データなし

融点：データなし

沸点：データなし

引火点：データなし

爆発範囲：データなし

蒸気圧：データなし

蒸気密度：データなし

比重：データなし

溶解性： 水に可溶
オクタノール/水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし

1 0. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。
反応性： -
避けるべき条件： -
危険有害な分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素、水以外）： なし

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）： 区分5 ラット LD₅₀ 3, 241mg/kg⁸⁾ (ホウ酸)
急性毒性（経皮）： 分類できない
急性毒性（吸入）： 分類できない
皮膚腐食性／刺激性： 区分3
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分外
呼吸器感受性： 分類できない
皮膚感受性： 分類できない
生殖細胞変異原性： 区分外
発がん性： 区分外
生殖毒性： 区分1B
標的臓器／全身毒性（単回暴露）： 区分外
標的臓器／全身毒性（反復暴露）： 区分外
吸引性呼吸器有害性： 分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性： 魚類（ニジマス）の96時間LC₅₀ 447mg/L⁸⁾ (ホウ酸)
残留性／分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壤中の移動性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：
・焼却する場合、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料とともにアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。
・凝集沈殿、活性汚泥などの十分な廃水処理設備がある場合、水溶液は廃水処理により清浄にしてから排出する。
・処理施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器・包装：
十分に洗浄して廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制
国連分類： なし
国連番号： なし
指針番号：
容器等級： なし
国内規制： その他の有害性物質
輸送の特定の安全対策及び条件：
輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。
転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

化学物質管理促進法：	第2条第1指定化学物質（ホウ酸）
労働安全衛生法：	非該当
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	非該当
化審法：	非該当

16. その他の情報（引用文献等）

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻（2008年度版）
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針（日本化学工業協会）
- 4) 15509の化学商品（2009年版）（化学工業日報）
- 5) 安全衛生情報センターHP（中央労働防止協会）
- 6) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版データベース（国立医薬品食品衛生研究所）
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版（中央労働災害防止協会）
- 8) 化学物質情報管理センターデータベース（製品評価技術基盤機構）

成分：	ホウ酸	その他	混合物
	2%	98%	
化学式：	H ₃ BO ₃		
CAS No.：	10043-35-3		
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-63		
急性毒性(経口)：	区分5	区分外	区分5 ^{※1}
急性毒性(経皮)：	分類できない	区分外	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	区分外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分2	区分外	区分3 ^{※2}
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分2A-2B	区分外	区分外 ^{※3}
呼吸器感受性と皮膚感受性：	分類できない	区分外	区分外
生殖細胞変異原性：	区分外	区分外	区分外
発がん性：	区分外	区分外	区分外
生殖毒性：	区分1B	区分外	区分1B ^{※4}
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分1（神経系、消化管） 区分3（気道刺激性）	区分外	区分外 ^{※5}
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	区分1（腎臓）	区分外	区分外 ^{※6}
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	区分外	分類できない
水生環境急性有害性：	区分外	区分外	区分外
水生環境慢性有害性：	区分外	区分外	区分外
※1ラットの経口毒性データより2000<ATEmix<5000となることより区分5とした。			
※2ホウ酸の濃度が3%以下のため区分外とした。			
※3ホウ酸の濃度が1%以上10未満のため区分3とした。			
※4ホウ酸の濃度が0.3%以上のため区分1Bとした。			
※5ホウ酸の濃度が10%未満のため区分外とした。			
※6ホウ酸の濃度が10%未満のため区分外とした。			

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット - CN・T - L (薬品ハ)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

該当

物理化学的危険性

分類できない

健康有害性

急性毒性 (経口) : 区分4
急性毒性 (経皮) : 区分5
急性毒性 (吸入) : 分類できない
皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分3 (気道刺激性)
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 分類できない
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性 : 分類できない
水生環境慢性有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

シンボル : 腐食性、感嘆符

注意喚起用語 : 危険

危険有害性情報 :

飲み込むと有害 (経口)
皮膚に接触すると有害のおそれ (経皮)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性)

注意書き :

- 【予防策】
- ・粉塵またはミストを吸入しないこと。
 - ・フェーム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。

- 【対応】
- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
 - ・飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・皮膚(または髪)にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 - ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 - ・直ちに医師に連絡すること。
 - ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 【保管】
- ・容器を密閉して、涼しい所／換気の良いところで保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物／容器は国／都道府県／市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物
化学名：	ポナールキット - CN・T - L (薬品ハ)
別名：	PONALKIT-CN・T-L (薬品ハ)
成分及び含有量：	リン酸(85%以上)
化学特性(化学式)：	H_3PO_4 (リン酸)
CAS No.：	7664-38-2(リン酸)
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-422(リン酸)
危険有害成分：	リン酸

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- ・医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- ・呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- ・嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合：

- ・付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- ・衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- ・その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合：

- ・直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- ・洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- ・この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと眼の障害を生じる恐れがある。

飲み込んだ場合：

- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。
- ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

火災時の特定危険有害性： リン酸化物等を発生する。

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水、粉末消火剤を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧、泡で一気に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・溶液の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよくふき取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所に関係者以外の立入を禁止する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- ・酸化性物質との接触を避ける。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。
- ・通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。
- ・混触禁止物質（無水クロム酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸）と分離して保管する。

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

- ・密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 (2008年度版)： 1mg/m³ (リン酸)

ACGIH (2006年度版)： TWA 1mg/m³、STEL 3mg/m³ (リン酸)

保護具

呼吸器用の保護具： 防毒マスク

手の保護具： 保護手袋を使用する。

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣) 状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等

適切な衛生対策： -

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)：	無色	液体
臭い：	臭いなし	
pH：	pH2以下	
融点：	42°C (リン酸)	
沸点：	データなし	
引火点：	データなし	
爆発範囲：	データなし	
蒸気圧：	4Pa (20°C) (リン酸)	
蒸気密度：	3.4 (空気=1) (リン酸)	
比重：	データなし	
溶解性：	水に可溶	
オクタノール/水分配係数：	データなし	
自然発火温度：	データなし	
分解温度：	データなし	

10. 安定性及び反応性

安定性：	適切な取扱い条件下では安定。
反応性：	-
避けるべき条件：	酸化性物質、金属など
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)：	リン酸化物

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)：	ラット LD ₅₀ 1, 530mg/kg ⁹⁾ 、LD ₅₀ 1, 250mg/kg ⁹⁾ (リン酸)
急性毒性 (経皮)：	ウサギ LD ₅₀ 2, 740mg/kg ⁹⁾ (リン酸)
急性毒性 (吸入)：	分類できない
皮膚腐食性/刺激性：	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	区分1
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露)：	区分3 (気道刺激性)
標的臓器/全身毒性 (反復暴露)：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性：	データなし
残留性/分解性：	データなし
生物蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし

13. 廃棄上の注意

化学物質 (残余廃棄物) :

- ・焼却する場合、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料とともにアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。
- ・凝集沈殿、活性汚泥などの十分な廃水処理設備がある場合、水溶液は廃水処理により清浄にしてから排出する。
- ・処理施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器・包装 :

十分に洗浄して廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : クラス8, 腐食性物質

国連番号 : 1805 (Phosphoric acid solution)

指針番号 : -

容器等級 : III

国内規制 : その他の有害性物質

輸送の特定の安全対策及び条件 :

輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

化学物質管理促進法 : 非該当

労働安全衛生法 : 施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物質 (リン酸)、第18条の2 名称等を通知すべき有害物 (リン酸)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

化審法 : 非該当

16. その他の情報 (引用文献等)

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻 (2008年度版)
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針 (日本化学工業協会)
- 4) 15509の化学商品 (2009年版) (化学工業日報)
- 5) 安全衛生情報センターHP (中央労働防止協会)
- 6) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版 (中央労働災害防止協会)
- 8) 溶媒ハンドブック (丸善)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース (製品評価技術基盤機構)

成分：	リン酸	その他（水）	混合物
含有量（％）：	85%以上	15%以下	
化学式：	H ₃ PO ₃	H ₂ O	
CAS No.：	7757-79-1	7732-18-5	
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-422	なし	
急性毒性(経口)：	区分4	区分外	区分4 ^{※1}
急性毒性(経皮)：	区分5	区分外	区分5 ^{※2}
急性毒性(吸入)：	分類できない	区分外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分1A-1C	区分外	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分1	区分外	区分1
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	区分外	分類できない
発がん性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖毒性：	分類できない	区分外	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分3（気道刺激性）	区分外	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	区分外	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	区分外	分類できない
水生環境急性有害性：	分類できない	区分外	分類できない
水生環境慢性有害性：	分類できない	区分外	分類できない
※1ラットの経口毒性データより300<ATEmix<2000となることより区分4とした。			
※2ウサギの経皮毒性データより2000<ATEmix<5000となることより区分5とした。			

- 全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- 重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品A)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性 : 有害性は極めて低いと考えられる。
環境影響 : 環境にとって有害性は低いと考えられる。
物理的及び化学的危険性 : 通常の取扱では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性 : データなし
分類の名称 (分類基準は日本方式) : 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名 : ポナールキット-CN・T-L (薬品A)
別名 : PONALKIT-CN・T-L (薬品A)
成分及び含有量 : 成分非公開 (規制物質含まず)
化学特性 (化学式) : -
CAS No : -
官報公示整理番号 (化審法・安衛法) : -
危険有害成分 : 該当なし

4. 応急措置

吸入した場合 :

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 :

- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。

目に入った場合 :

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合 :

- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護 :

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水噴霧、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火薬剤、棒状放水
使ってはならない消火剤 : -
火災時の特定危険有害性 : -

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一気に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項：**

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策：**

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管**適切な保管条件：**

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

加熱、燃焼、日光

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱については局所排気内、または全体換気のある場所で行う。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2008年度版）： 記載なし

ACGIH（2006年度版）： 記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： マスク

手の保護具： 保護手袋
目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等
皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣)

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)： 白色 固体
臭い： なし
pH： データなし
融点： データなし
沸点： データなし
引火点： データなし
爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
蒸気密度： データなし
比重： データなし
溶解性： 水に溶解する
オクタノール/水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし
その他のデータ： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。
反応性： 情報なし。
避けるべき条件： -
避けるべき材料： -
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)： 分類できない
急性毒性 (経皮)： 分類できない
急性毒性 (吸入)： 分類できない
皮膚腐食性/刺激性： 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 分類できない
呼吸器感作性： 分類できない
皮膚感作性： 分類できない
生殖細胞変異原性： 分類できない
発がん性： 分類できない
生殖毒性： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露)： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (反復暴露)： 分類できない
吸引性呼吸器有害性： 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性： データなし
残留性/分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壤中の移動性： データなし

13. 廃棄上の注意

化学物質 (残余廃棄物)：
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器・包装：

関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器の廃棄をする場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制 なし
 国連分類：なし
 国連番号：なし
 指針番号：なし
 容器等級：情報なし

国内規制：なし

輸送の特定の安全対策及び条件：

- ・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れの無いことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：非該当
 労働安全衛生法：非該当
 毒物及び劇物取締法：非該当
 消防法：非該当
 化審法：非該当
 航空法：非該当
 船舶安全法：非該当
 水質汚濁防止法：非該当

1 6. その他の情報 (引用文献等)

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻 (2008年度版)
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針 (日本化学工業協会)
- 4) 15509の化学商品 (2009年版) (化学工業日報)
- 5) 安全衛生情報センターHP (中央労働防止協会)
- 6) 国際化学物質安全性カード (I C S C) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版 (中央労働災害防止協会)
- 8) 溶媒ハンドブック (丸善)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース (製品評価技術基盤機構)

成分：	成分非公開	混合物
含有量(%)：	-	-
化学式：	-	-
CAS No.：	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	-	-
急性毒性(経口)：	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない	分類できない
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない
生殖毒性：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性：	分類できない	分類できない

水生環境慢性有害性：	分類できない	分類できない
------------	--------	--------

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品B)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性: 有害性は極めて低いと考えられる。
環境影響: 環境にとって有害性は低いと考えられる。
物理的及び化学的危険性: 通常取扱では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性: データなし
分類の名称 (分類基準は日本方式): 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物
化学名: ポナールキット-CN・T-L (薬品B)
別名: PONALKIT-CN・T-L (薬品B)
成分及び含有量: 成分非公開 (規制物質含まず)
化学特性 (化学式): -
CAS No: -
官報公示整理番号 (化審法・安衛法): -
危険有害成分: 該当なし

4. 応急措置

吸入した場合:

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合:

- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。

目に入った場合:

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合:

- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護:

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤: 水噴霧、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火薬剤、棒状放水
使ってはならない消火剤: -
火災時の特定危険有害性: -

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項：**

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策：**

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管**適切な保管条件：**

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

加熱、燃焼、日光

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱については局所排気内、または全体換気のある場所で行う。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2008年度版）：

ACGIH（2006年度版）：

保護具

呼吸器用の保護具： マスク

手の保護具： 保護手袋
目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等
皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣)

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)： 白色 固体
臭い： なし
pH： データなし
融点： データなし
沸点： データなし
引火点： データなし
爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
蒸気密度： データなし
比重： データなし
溶解性： 水に溶解する
オクタノール/水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし
その他のデータ： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。
反応性： 情報なし。
避けるべき条件： -
避けるべき材料： -
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)： 分類できない
急性毒性 (経皮)： 分類できない
急性毒性 (吸入)： 分類できない
皮膚腐食性/刺激性： 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 分類できない
呼吸器感作性： 分類できない
皮膚感作性： 分類できない
生殖細胞変異原性： 分類できない
発がん性： 分類できない
生殖毒性： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露)： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (反復暴露)： 分類できない
吸引性呼吸器有害性： 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性： データなし
残留性/分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壤中の移動性： データなし

13. 廃棄上の注意

化学物質 (残余廃棄物)：
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器・包装：
 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器の廃棄をする場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類：クラス8, 腐食性物質

国連番号：3263 (Corrosive liquid, basic, organic, n.o.s. (Chloramine T solution))

指針番号：なし

容器等級：III

国内規制：なし

輸送の特定の安全対策及び条件：

- ・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：非該当

労働安全衛生法：非該当

毒物及び劇物取締法：非該当

消防法：非該当

化審法：非該当

航空法：非該当

船舶安全法：非該当

水質汚濁防止法：非該当

1 6. その他の情報 (引用文献等)

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻 (2008年度版)
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針 (日本化学工業協会)
- 4) 15509の化学商品 (2009年版) (化学工業日報)
- 5) 安全衛生情報センターHP (中央労働防止協会)
- 6) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版 (中央労働災害防止協会)
- 8) 溶媒ハンドブック (丸善)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース (製品評価技術基盤機構)

成分：	成分非公開	混合物
含有量(%)：	-	-
化学式：	-	-
CAS No.：	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	-	-
急性毒性(経口)：	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない	分類できない
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない
生殖毒性：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	分類できない

吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない
水生環境急性有害性：	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性：	分類できない	分類できない

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品C)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類できない

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

有害性: 有害性は極めて低いと考えられる。
環境影響: 環境にとって有害性は低いと考えられる。
物理的及び化学的危険性: 通常の取扱では、火災の危険性は極めて低い。
特定の危険有害性: データなし
分類の名称 (分類基準は日本方式): 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物
化学名: ポナールキット-CN・T-L (薬品C)
別名: PONALKIT-CN・T-L (薬品C)
成分及び含有量: 成分非公開 (規制物質含まず)
化学特性 (化学式): -
CAS No: -
官報公示整理番号 (化審法・安衛法): -
危険有害成分: 該当なし

4. 応急措置

吸入した場合:

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合:

- ・多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。

目に入った場合:

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合:

- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護:

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤: 水噴霧、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火薬剤、棒状放水
使ってはならない消火剤: -
火災時の特定危険有害性: -

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。
- ・火災時、温度上昇などにより爆発する恐れがあるので、消火に当たっては十分な距離をとる。

消火を行う者の保護（保護具等）： ・呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項：**

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策：**

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管**適切な保管条件：**

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

避けるべき保管条件：

加熱、燃焼、日光

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱については局所排気内、または全体換気のある場所で行う。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2008年度版）：記載なし

ACGIH（2006年度版）：記載なし

保護具

呼吸器用の保護具： マスク

手の保護具： 保護手袋
目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等
皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣)

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)： 白色 固体
臭い： なし
pH： データなし
融点： データなし
沸点： データなし
引火点： データなし
爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
蒸気密度： データなし
比重： データなし
溶解性： 水に溶解する
オクタノール/水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし
その他のデータ： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。
反応性： 情報なし。
避けるべき条件：
避けるべき材料：
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)： 分類できない
急性毒性 (経皮)： 分類できない
急性毒性 (吸入)： 分類できない
皮膚腐食性/刺激性： 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 分類できない
呼吸器感作性： 分類できない
皮膚感作性： 分類できない
生殖細胞変異原性： 分類できない
発がん性： 分類できない
生殖毒性： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露)： 分類できない
標的臓器/全身毒性 (反復暴露)： 分類できない
吸引性呼吸器有害性： 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性： データなし
残留性/分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壤中の移動性： データなし

13. 廃棄上の注意

化学物質 (残余廃棄物)：
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器・包装：

関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器の廃棄をする場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 なし
 国連分類：なし
 国連番号：なし
 指針番号：なし
 容器等級：情報なし

国内規制：なし

輸送の特定の安全対策及び条件：

- ・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れの無いことを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

15. 適用法令

化学物質管理促進法：非該当
 労働安全衛生法：非該当
 毒物及び劇物取締法：非該当
 消防法：非該当
 化審法：非該当
 航空法：非該当
 船舶安全法：非該当
 水質汚濁防止法：非該当

16. その他の情報 (引用文献等)

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻 (2008年度版)
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針 (日本化学工業協会)
- 4) 15509の化学商品 (2009年版) (化学工業日報)
- 5) 安全衛生情報センターHP (中央労働防止協会)
- 6) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版 (中央労働災害防止協会)
- 8) 溶媒ハンドブック (丸善)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース (製品評価技術基盤機構)

成分：	成分非公開	混合物
含有量(%)：	-	-
化学式：	-	-
CAS No.：	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	-	-
急性毒性(経口)：	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)：	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない	分類できない
呼吸器感受性と皮膚感受性：	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	分類できない
発がん性：	分類できない	分類できない
生殖毒性：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類できない	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	分類できない

水生環境急性有害性：	分類できない	分類できない
水生環境慢性有害性：	分類できない	分類できない

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (薬品D)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 該当

物理化学的危険性

引火性液体 区分2

健康有害性

急性毒性 (経口) : 区分4
急性毒性 (経皮) : 区分3
急性毒性 (吸入) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 区分外
発がん性 : 区分2
生殖毒性 : 区分2
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分1 (呼吸器、神経系)
区分3 (麻酔作用)
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 区分1 (肝臓、腎臓、神経系)
区分2 (血液系)
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性 : 区分1
水生環境慢性有害性 : 区分外

【GHSラベル要素】

シンボル : 炎、どくろ、腐食性、健康有害性、環境

注意喚起用語 : 危険

危険有害性情報 :

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害 (経口)
皮膚に接すると有毒 (経皮)
吸入すると有害 (気体、蒸気、粉じん及びミスト)
重篤な皮膚の薬傷
重篤な眼の損傷
発がんのおそれの疑い
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
臓器の障害 (呼吸器、神経系)
呼吸器への刺激のおそれ (麻酔作用)
長期又は反復暴露による臓器の障害 (肝臓、腎臓、神経系)
長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ (血液系)
水生生物に非常に強い毒性

注意書き :

- 【予防策】
- ・使用前に取扱説明書等を入手すること。
 - ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 - ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
 - ・容器および受器を接地すること。
 - ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 - ・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
 - ・火災を発生しない工具を使用すること。
 - ・フューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 - ・粉塵またはミストを吸入しないこと。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・環境への放出を避けること。
 - ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
 - ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- 【対応】
- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
 - ・飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・皮膚(または髪)にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
 - ・皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 - ・直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと/取り除くこと。
 - ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。
 - ・暴露した場合：医師に連絡すること。
 - ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること
 - ・気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
 - ・漏出物を回収すること。
- 【保管】
- ・容器を密閉して、涼しい所/換気の良いところで保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物/容器は国/都道府県/市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：	単一製品
化学名：	ポナールキット-CN・T-L (薬品D)
別名：	PONALKIT-CN・T-L (薬品D)
成分及び含有量：	ピリジン (100%)
化学特性 (化学式)：	C ₅ H ₅ N (ピリジン)
CAS No：	110-86-1 (ピリジン)
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)：	(5)-710 (ピリジン)
危険有害成分：	ピリジン

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- ・医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- ・呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- ・嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合：

- ・付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- ・衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- ・その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合：

- ・直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- ・洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- ・この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと眼の障害を生じる恐れがある。

飲み込んだ場合：

- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。
- ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。
- ・揮発性の液体なので無理に吐かせない。喉頭や食道の炎症、薬傷を悪化させる恐れがある。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤： 水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

火災時の特定危険有害性： 窒素酸化物を発生する。

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水、粉末消火剤を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧、泡で一気に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・溶液の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよくふき取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所に関係者以外の立入を禁止する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- ・酸化性物質との接触を避ける。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。
- ・可燃物を近くに置かない。
- ・耐火設備に貯蔵する。
- ・通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。
- ・混触禁止物質(無水クロム酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸)と分離して保管する。

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会 (2008年度版)：記載なし

ACGIH (2006年度版)：TWA 1ppm

保護具

呼吸器用の保護具： 防毒マスク (有機ガス用)

手の保護具： 保護手袋、添付のピンセットを使用する。

目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣) 状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等

適切な衛生対策： ゴム等を侵すので点検時注意する。また、マスク等の吸着剤の交換は定期的又は使用の都度行なう。

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)： 無色 液体

臭い： 特異臭あり

pH： データなし

融点： -42℃

沸点： 115℃

引火点： 17℃

爆発範囲： 1.7~10.6%

蒸気圧： 2.0 kPa (20℃)

蒸気密度： 2.73 (空気=1)

比重： 0.98

溶解性： 水に可溶、アルコール、エーテル、ベンゼン等の有機溶剤に可溶

オクタノール/水分分配係数： 0.65

自然発火温度： 480℃

分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 適切な取扱い条件下では安定。

反応性： 酸化剤との接触、着火源により燃焼する可能性がある。

避けるべき条件： 酸化性物質、金属など

危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： 窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)： 区分4 ラット LD₅₀ 891mg/kg⁹⁾

急性毒性 (経皮) :	区分3
急性毒性 (吸入) :	区分4 ラット LC ₅₀ (4時間) 12.898mg/L ⁹⁾ 、15.8mg/L ⁹⁾
皮膚腐食性/刺激性 :	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 :	区分1
呼吸器感作性 :	分類できない
皮膚感作性 :	分類できない
生殖細胞変異原性 :	区分外
発がん性 :	区分2
生殖毒性 :	区分2
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) :	区分1 (呼吸器、神経系) 区分3 (麻酔作用)
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) :	区分1 (肝臓、腎臓、神経系) 区分2 (血液系)
吸引性呼吸器有害性 :	分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性 :	藻類 (セテナストラム) の24-72時間EC50=0.069mg/L ⁹⁾
残留性/分解性 :	BODによる分解度 62% ⁹⁾
生物蓄積性 :	logKow=0.65 ⁹⁾
土壤中の移動性 :	データなし

1 3. 廃棄上の注意

- 化学物質 (残余廃棄物) :
- ・焼却する場合、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料とともにアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。
 - ・凝集沈殿、活性汚泥などの十分な廃水処理設備がある場合、水溶液は廃水処理により清浄にしてから排出する。
 - ・処理施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。
- 汚染容器・包装 :
- 十分に洗浄して廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連分類 : クラス3, 引火性液体類
- 国連番号 : 1282 (Pyridine)
- 指針番号 : -
- 容器等級 : II
- 国内規制 : その他の有害性物質、引火性液体
- 輸送の特定の安全対策及び条件 :
- 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。
- 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法 :	第2条第1指定化学物質 (ピリジン)
労働安全衛生法 :	施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物質 (ピリジン)、第18条の2 名称等を通知すべき有害物 (ピリジン) 施行令 別表第1の4 引火性の物 (ピリジン)
毒物及び劇物取締法 :	非該当
消防法 :	危険物第4類 第1石油類 水溶性液体
化審法 :	非該当

1 6. その他の情報 (引用文献等)

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻 (2008年度版)
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)

- 3) 緊急時応急措置指針 (日本化学工業協会)
- 4) 15509の化学商品 (2009年版) (化学工業日報)
- 5) 安全衛生情報センターHP (中央労働防止協会)
- 6) 国際化学物質安全性カード (I C S C) 日本語版データベース (国立医薬品食品衛生研究所)
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版 (中央労働災害防止協会)
- 8) 溶媒ハンドブック (丸善)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース (製品評価技術基盤機構)

成分：	ピリジン
含有量(%)：	100
化学式：	C ₅ H ₅ N
CAS No.：	110-86-1
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(5)-710
引火性液体：	区分2
急性毒性(経口)：	区分4
急性毒性(経皮)：	区分3
急性毒性(吸入)：	区分4
急性毒性(吸入:ミスト)：	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分1
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	区分2
生殖毒性：	区分2
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分1 (呼吸器、神経系) 区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	区分1 (肝臓、腎臓、神経系) 区分2 (血液系)
吸引性呼吸器有害性：	分類できない
水生環境急性有害性：	区分1
水生環境慢性有害性：	区分外

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

作成日 1996/11/27
改訂日 2019/09/16

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-CN・T-L (燃料アルコール)
製品コード (整理番号) PK03
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号 : 096-286-1515
Fax番号 : 096-286-1525
E-mail : info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 該当

物理化学的危険性

引火性液体 区分2

健康有害性

急性毒性 (経口) : 区分外
急性毒性 (経皮) : 分類できない
急性毒性 (吸入) : 区分外
皮膚腐食性/刺激性 : 区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A-2B
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 区分1B
発がん性 : 区分外
生殖毒性 : 区分1A
標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分3 (気道刺激性、麻醉性)
標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 区分1 (肝臓)
区分2 (神経)
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性 : 区分外
水生環境慢性有害性 : 区分外

【GHSラベル要素】

シンボル : 炎、感嘆符、健康有害性
注意喚起用語 : 危険
危険有害性情報 :
引火性の高い液体及び蒸気
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性、麻醉性)
長期又は反復暴露による臓器の障害 (肝臓)
長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ (神経)

注意書き :

- 【予防策】
- ・使用前に取扱説明書等を入手すること。
 - ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 - ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
 - ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 - ・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
 - ・火災を発生しない工具を使用すること。
 - ・フェーム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
 - ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- 【対応】
- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
 - ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
 - ・皮膚(または髪)にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 - ・取り扱った後、手を洗うこと。
 - ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること
 - ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 - ・気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
- 【保管】
- ・容器を密閉して、涼しい所/換気の良いところで保管すること。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物/容器は国/都道府県/市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物
化学名：	ポナールキット-CN・T-L (燃料アルコール)
別名：	PONALKIT-CN・T-L (燃料アルコール)
成分及び含有量：	エタノール(95%)
化学特性(化学式)：	C ₂ H ₆ O(エタノール)
CAS No：	64-17-5(エタノール)
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(2)-202(エタノール)
危険有害成分：	エタノール

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- ・医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- ・呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- ・嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合：

- ・付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- ・衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- ・その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合：

- ・直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- ・洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- ・この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと眼の障害を生じる恐れがある。

飲み込んだ場合：

- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。
- ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。
- ・揮発性の液体なので無理に吐かせない。喉頭や食道の炎症、薬傷を悪化させる恐れがある。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤：

水噴霧、耐アルコール泡、粉末、二酸化炭素

火災時の特定危険有害性：

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・初期消火には水、粉末消火剤を用いる。
- ・大規模火災の場合は、噴霧、泡で一挙に消火する。
- ・容器周辺が火災の時は、容器を安全な場所に移動する。
- ・容器が移動できないときは、容器に水を注水して冷却する。

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。、・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・固体の場合、飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
- ・溶液の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよくふき取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。
- ・取扱い場所に関係者以外の立入を禁止する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- ・酸化性物質との接触を避ける。

保管

適切な保管条件：

- ・密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- ・開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- ・長期間の保管を避ける。

- ・可燃物を近くに置かない。
 - ・耐火設備に貯蔵する。
 - ・通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。
 - ・混触禁止物質(無水クロム酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸)と分離して保管する。
- 安全な容器包装材料：
- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策： 密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。
- 管理濃度： 設定されていない。
- 許容濃度
日本産業衛生学会 (2008年度版)：
ACGIH (2006年度版)：TWA 1000ppm (エタノール)
- 保護具
呼吸器用の保護具： 防毒マスク (有機ガス用)
手の保護具： 保護手袋、添付のピンセットを使用する。
目の保護具： 保護眼鏡、ゴーグル等
皮膚及び身体の保護具： 保護服 (長袖作業衣) 状況に応じ、ゴム長靴、前掛け、フェイスシールド等
適切な衛生対策： ゴム等を侵すので点検時注意する。また、マスク等の吸着剤の交換は定期的又は使用の都度行なう。

9. 物理的及び化学的性質

外観 (色/形状)：	無色	液体
臭い：	エタノール臭	
pH：	データなし	
融点：	-117℃	
沸点：	79℃	
引火点：	13℃	
爆発範囲：	3.3～19%	
蒸気圧：	5.8kPa (20℃)	
蒸気密度：	1.6 (空気=1)	
比重：	0.789 (20℃/4℃)	
溶解性：	水に可溶	
オクタノール/水分分配係数：	0.32	
自然発火温度：	363℃	
分解温度：	データなし	

10. 安定性及び反応性

- 安定性： 適切な取扱い条件下では安定。
- 反応性： 酸化剤との接触、着火源により燃焼する可能性がある。
- 避けるべき条件： 酸化性物質、金属など
- 危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外)： なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)：	区分外	ラット	LD ₅₀ 6.2g～17.2g/kg ⁹⁾
急性毒性 (経皮)：	分類できない		
急性毒性 (吸入)：	分類対象外		
皮膚腐食性/刺激性：	区分外		
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	区分2A-2B		
呼吸器感作性：	分類できない		
皮膚感作性：	分類できない		
生殖細胞変異原性：	区分1B		
発がん性：	区分外		

生殖毒性：	区分1A
標的臓器／全身毒性（単回暴露）：	区分3（気道刺激性、麻酔性）
標的臓器／全身毒性（反復暴露）：	区分1（肝臓） 区分2（神経）
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性：	甲殻類(ネコゼミジンコ属)の48時間EC ₅₀ 5, 463. 9mg/L ⁹⁾
残留性／分解性：	データなし
生物蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：	
・焼却する場合、十分な可燃性溶剤、重油等の燃料とともにアフターバーナー、スクラバー等を具備した焼却炉でできるだけ高温で少量ずつ焼却し、排ガスは中和処理する。	
・凝集沈殿、活性汚泥などの十分な廃水処理設備がある場合、水溶液は廃水処理により清浄にしてから排出する。	
・処理施設がない等の理由で処理できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。	
汚染容器・包装：	
十分に洗浄して廃棄する。	

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類：	クラス3, 引火性液体類
国連番号：	1170 (Ethyl alcohol solution)
指針番号：	-
容器等級：	II
国内規制：	その他の有害性物質、引火性液体
輸送の特定の安全対策及び条件：	
輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。	
転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。	
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。	

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法：	非該当
労働安全衛生法：	施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物質（エタノール）、第18条の2 名称等を通知すべき有害物（エタノール） 施行令 別表第1の4 引火性の物（エタノール）
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	危険物第4類 アルコール類
化審法：	非該当

1 6. その他の情報（引用文献等）

- 1) 日本産業衛生学会誌50巻（2008年度版）
- 2) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 3) 緊急時応急措置指針（日本化学工業協会）
- 4) 15509の化学商品（2009年版）（化学工業日報）
- 5) 安全衛生情報センターHP（中央労働防止協会）
- 6) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版データベース（国立医薬品食品衛生研究所）
- 7) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版（中央労働災害防止協会）
- 8) 溶媒ハンドブック（丸善）
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース（製品評価技術基盤機構）

成分:	エタノール
含有量(%):	95
化学式:	C ₂ H ₆ O
CAS No.:	64-17-5
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	(2)-202
引火性液体:	区分2
急性毒性(経口):	区分外
急性毒性(経皮):	分類できない
急性毒性(吸入):	区分外
急性毒性(吸入:ミスト):	区分外
皮膚腐食性・刺激性:	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:	区分2A-2B
呼吸器感受性と皮膚感受性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	区分1B
発がん性:	区分外
生殖毒性:	区分外
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性、麻酔作
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓) 区分2(神経)
吸引性呼吸器有害性:	分類できない
水生環境急性有害性:	区分外
水生環境慢性有害性:	区分外

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。